

2014年 公益財団法人 精密測定技術振興財団 品質工学賞 発表賞

会長就任にあたって

品質工学会 会長
齊藤 潔

2014年6月の総会において、第8代の品質工学会会長に就任いたしました。私は、品質工学との関わりは、1975年頃、日本規格協会主催の実験計画法セミナーで田口玄一博士の指導を直接受けたことから始まって、担当者として、技術開発マネジメント、15年間に亘る全社推進の取り組みに幅広く長年にわたりてきました。これらの経験を生かし微力ながら、学会のさらなる成長に貢献する決意です。

「如何にして学会の魅力を向上させるか」にあたって、第8代の品質工学会会長に就任いたしました。私は、品質工学との関わりは、1975年頃、日本規格協会主催の実験計画法セミナーで田口玄一博士の指導を直接受けたことから始まって、担当者として、技術開発マネジメント、15年間に亘る全社推進の取り組みに幅広く長年にわたりてきました。これらの経験を生かし微力ながら、学会のさらなる成長に貢献する決意です。

学会の魅力向上へ連携施策強化

今年の研究発表大会では、昨年に引き続き「マクロ視点」議論が活発に行われました。

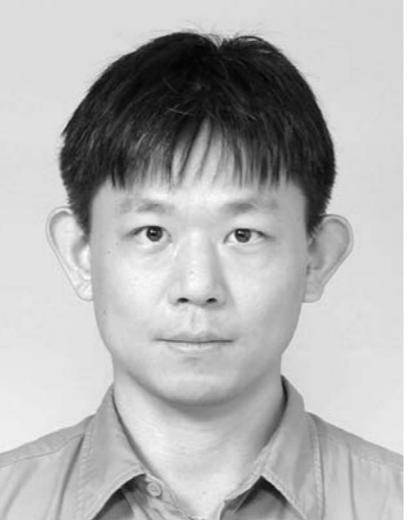
部分最適から全体最適へ、技術改善から技術開発へ、組織の壁を越えた連携の必要性、エコシステム、創造性の発揮など、真剣に議論が進んでいました。効率性、経済性を上げるためにも、今後とも活発に議論を継続し、実効性を上げていきたいと考えています。

学会運営上の最大の課題は、

「如何にして学会の魅力を向上させるか」にあたって、第8代の品質工学会会長に就任いたしました。私は、品質工学との関わりは、1975年頃、日本規格協会主催の実験計画法セミナーで田口玄一博士の指導を直接受けたことから始まって、担当者として、技術開発マネジメント、15年間に亘る全社推進の取り組みに幅広く長年にわたりてきました。これらの経験を生かし微力ながら、学会のさらなる成長に貢献する決意です。

第22回品質工学研究発表大会において、101件の発表の中から「公益財団法人精密測定技術振興財団品質工学賞発表賞」の金賞1件と銀賞3件を選定した。また、大会実行委員長と品質工学会会長がそれぞれ独自で選定し決定される、「品質工学研究発表大会 大会実行委員長賞」、「品質工学会 会長賞」も1件ずつ選定された。

銀賞



画像シミュレーション技術を用いた構造設計の最適化検討

銀賞



はみがきチューブ接着工程の最適化

銀賞



MTシステムによる赤潮発生判別の試み

金賞



戸枝孝由氏（写真）、
木田修二氏、飯島裕隆
氏、朝武敦氏、山内正好
氏、高木俊雄氏、田村希
志臣氏（コニカミノルタ）

「毒性推定システムの研究—
出さないことから作
らないことへ（第2報）」

新規に設計・合成した
化学物質は、外部認証機
関による有害性の有無判
定が必要である。しかし、
その判定には多くの
試験費用と試験期間が必
要である。推定した
結果だが、品質工学独自
の予測技術であるMTシ
ステムを活用すること
で、赤潮発生の高精度な
予測実現に見通しを得
た。

本研究は、まだ特定の
立場から、外部認証機
による有害性の有無判
定が必要である。しか
し、その判定には多くの
試験費用と試験期間が必
要である。推定した
結果だが、品質工学独自
の予測技術であるMTシ
ステムを活用すること
で、赤潮発生の高精度な
予測実現に見通しを得
た。

式の情報だけから十分な
精度で推定できる方法を
提案した。

要であり、開発効率悪化
の原因となっている。

本研究は新規化学物質
を、実際に合成する前に
その構造から有害性の有
無とその程度を定量推定
する技術の開発に取り組
んだものである。推定した
結果だが、品質工学独自
の予測技術であるMTシ
ステムを活用すること
で、赤潮発生の高精度な
予測実現に見通しを得
た。

式の情報だけから十分な
精度で推定できる方法を
提案した。

要であり、開発効率悪化
の原因となっている。

本研究は新規化学物質
を、実際に合成する前に
その構造から有害性の有
無とその程度を定量推定
する技術の開発に取り組
んだものである。推定した
結果だが、品質工学独自
の予測技術であるMTシ
ステムを活用すること
で、赤潮発生の高精度な
予測実現に見通しを得
た。

式の情報だけから十分な
精度で推定できる方法を
提案した。

要であり、開発効率悪化
の原因となっている。

本研究は新規化学物質
を、実際に合成する前に
その構造から有害性の有
無とその程度を定量推定
する技術の開発に取り組
んだものである。推定した
結果だが、品質工学独自
の予測技術であるMTシ
ステムを活用すること
で、赤潮発生の高精度な
予測実現に見通しを得
た。

式の情報だけから十分な
精度で推定できる方法を
提案した。

要であり、開発効率悪化
の原因となっている。

本研究は新規化学物質
を、実際に合成する前に
その構造から有害性の有
無とその程度を定量推定
する技術の開発に取り組
んだものである。推定した
結果だが、品質工学独自
の予測技術であるMTシ
ステムを活用すること
で、赤潮発生の高精度な
予測実現に見通しを得
た。

式の情報だけから十分な
精度で推定できる方法を
提案した。

要であり、開発効率悪化
の原因となっている。

本研究は新規化学物質
を、実際に合成する前に
その構造から有害性の有
無とその程度を定量推定
する技術の開発に取り組
んだものである。推定した
結果だが、品質工学独自
の予測技術であるMTシ
ステムを活用すること
で、赤潮発生の高精度な
予測実現に見通しを得
た。

式の情報だけから十分な
精度で推定できる方法を
提案した。

要であり、開発効率悪化
の原因となっている。

本研究は新規化学物質
を、実際に合成する前に
その構造から有害性の有
無とその程度を定量推定
する技術の開発に取り組
んだものである。推定した
結果だが、品質工学独自
の予測技術であるMTシ
ステムを活用すること
で、赤潮発生の高精度な
予測実現に見通しを得
た。

式の情報だけから十分な
精度で推定できる方法を
提案した。

要であり、開発効率悪化
の原因となっている。

本研究は新規化学物質
を、実際に合成する前に
その構造から有害性の有
無とその程度を定量推定
する技術の開発に取り組
んだものである。推定した
結果だが、品質工学独自
の予測技術であるMTシ
ステムを活用すること
で、赤潮発生の高精度な
予測実現に見通しを得
た。

式の情報だけから十分な
精度で推定できる方法を
提案した。

要であり、開発効率悪化
の原因となっている。

本研究は新規化学物質
を、実際に合成する前に
その構造から有害性の有
無とその程度を定量推定
する技術の開発に取り組
んだものである。推定した
結果だが、品質工学独自
の予測技術であるMTシ
ステムを活用すること
で、赤潮発生の高精度な
予測実現に見通しを得
た。

式の情報だけから十分な
精度で推定できる方法を
提案した。

要であり、開発効率悪化
の原因となっている。

本研究は新規化学物質
を、実際に合成する前に
その構造から有害性の有
無とその程度を定量推定
する技術の開発に取り組
んだものである。推定した
結果だが、品質工学独自
の予測技術であるMTシ
ステムを活用すること
で、赤潮発生の高精度な
予測実現に見通しを得
た。

式の情報だけから十分な
精度で推定できる方法を
提案した。

要であり、開発効率悪化
の原因となっている。

本研究は新規化学物質
を、実際に合成する前に
その構造から有害性の有
無とその程度を定量推定
する技術の開発に取り組
んだものである。推定した
結果だが、品質工学独自
の予測技術であるMTシ
ステムを活用すること
で、赤潮発生の高精度な
予測実現に見通しを得
た。

式の情報だけから十分な
精度で推定できる方法を
提案した。

要であり、開発効率悪化
の原因となっている。

本研究は新規化学物質
を、実際に合成する前に
その構造から有害性の有
無とその程度を定量推定
する技術の開発に取り組
んだものである。推定した
結果だが、品質工学独自
の予測技術であるMTシ
ステムを活用すること
で、赤潮発生の高精度な
予測実現に見通しを得
た。

式の情報だけから十分な
精度で推定できる方法を
提案した。

要であり、開発効率悪化
の原因となっている。

本研究は新規化学物質
を、実際に合成する前に
その構造から有害性の有
無とその程度を定量推定
する技術の開発に取り組
んだものである。推定した
結果だが、品質工学独自
の予測技術であるMTシ
ステムを活用すること
で、赤潮発生の高精度な
予測実現に見通しを得
た。

式の情報だけから十分な
精度で推定できる方法を
提案した。

要であり、開発効率悪化
の原因となっている。

本研究は新規化学物質
を、実際に合成する前に
その構造から有害性の有
無とその程度を定量推定
する技術の開発に取り組
んだものである。推定した
結果だが、品質工学独自
の予測技術であるMTシ
ステムを活用すること
で、赤潮発生の高精度な
予測実現に見通しを得
た。

式の情報だけから十分な
精度で推定できる方法を
提案した。

要であり、開発効率悪化
の原因となっている。

本研究は新規化学物質
を、実際に合成する前に
その構造から有害性の有
無とその程度を定量推定
する技術の開発に取り組
んだものである。推定した
結果だが、品質工学独自
の予測技術であるMTシ
ステムを活用すること
で、赤潮発生の高精度な
予測実現に見通しを得
た。

式の情報だけから十分な
精度で推定できる方法を
提案した。

要であり、開発効率悪化
の原因となっている。

本研究は新規化学物質
を、実際に合成する前に
その構造から有害性の有
無とその程度を定量推定
する技術の開発に取り組
んだものである。推定した
結果だが、品質工学独自
の予測技術であるMTシ
ステムを活用すること
で、赤潮発生の高精度な
予測実現に見通しを得
た。

式の情報だけから十分な
精度で推定できる方法を
提案した。

要であり、開発効率悪化
の原因となっている。

本研究は新規化学物質
を、実際に合成する前に
その構造から有害性の有
無とその程度を定量推定
する技術の開発に取り組
んだものである。推定した
結果だが、品質工学独自
の予測技術であるMTシ
ステムを活用すること
で、赤潮発生の高精度な
予測実現に見通しを得
た。

式の情報だけから十分な
精度で推定できる方法を
提案した。

要であり、開発効率悪化
の原因となっている。

本研究は新規化学物質
を、実際に合成する前に
その構造から有害性の有
無とその程度を定量推定
する技術の開発に取り組
んだものである。推定した
結果だが、品質工学独自
の予測技術であるMTシ
ステムを活用すること
で、赤潮発生の高精度な
予測実現に見通しを得
た。

式の情報だけから十分な
精度で推定できる方法を
提案した。

要であり、開発効率悪化
の原因となっている。

本研究は新規化学物質
を、実際に合成する前に
その構造から有害性の有
無とその程度を定量推定
する技術の開発に取り組
んだものである。推定した
結果だが、品質工学独自
の予測技術であるMTシ
ステムを活用すること
で、赤潮発生の高精度な
予測実現に見通しを得
た。

式の情報だけから十分な
精度で推定できる方法を
提案した。

要であり、開発効率悪化
の原因となっている。

本研究は新規化学物質
を、実際に合成する前に
その構造から有害性の有
無とその程度を定量推定
する技術の開発に取り組
んだものである。推定した
結果だが、品質工学独自
の予測技術であるMTシ
ステムを活用すること
で、赤潮発生の高精度な
予測実現に見通しを得
た。

式の情報だけから十分な
精度で推定できる方法を
提案した。

要であり、開発効率悪化
の原因となっている。

本研究は新規化学物質
を、実際に合成する前に
その構造から有害性の有
無とその程度を定量推定
する技術の開発に取り組
んだものである。推定した
結果だが、品質工学独自
の予測技術であるMTシ
ステムを活用すること
で、赤潮発生の高精度な
予測実現に見通しを得
た。

式の情報だけから十分な
精度で推定できる方法を
提案した。

要であり、開発効率悪化
の原因となっている。

本研究は新規化学物質
を、実際に合成する前に
その構造から有害性の有
無とその程度を定量推定
する技術の開発に取り組
んだものである。推定した
結果だが、品質工学独自
の予測技術であるMTシ
ステムを活用すること
で、赤潮発生の高精度な
予測実現に見通しを得
た。

式の情報だけから十分な
精度で推定できる方法を
提案した。

要であり、開発効率悪化
の原因となっている。

本研究は新規化学物質
を、実際に合成する前に
その構造から有害性の有
無とその程度を定量推定
する技術の開発に取り組
んだものである。推定した
結果だが、品質工学独自
の予測技術であるMTシ
ステムを活用すること
で、赤潮発生の高精度な
予測実現に見通しを得
た。